



No. 1

令和7年
4月28日

すずか幼稚園

第2すずかきしおか幼稚園

よろしくおねがいします

令和7年度が始まって2週間ほどとなり、子どもたちも園生活にしだいに慣れてきています。年長さんは年長さんらしく年少さんの手を引く姿が見られますし、年中さんも自分たちで何でもしてみようとする様子がうかがえます。年少さんは入園して間もないのですが、年年少組からの進級園児もいるためか幼稚園を自分たちの庭として元気に動き回っています。

今年は春先の天候不順により桜の開花が遅れたため、桜の花に囲まれての進級式・入園式となり、まさしく春らしい季節の中での始まりとなりました。

先日の個別懇談会では、保護者の皆様とお話させていただく中で、ご家庭でのお子さまの様子や体調等、いろいろな情報を教えていただくとともに幼稚園に対するご意見も頂戴し、意義ある時間だったと感じております。保護者の皆様には、お忙しい中を園にお越しいただき、ありがとうございました。

この「べる きっず」は、園行事での子どもたちの様子をお伝えしたり、子どもたちの生活に関わってご家庭と園とで共有しておきたい情報を提供する情報紙として、すずか幼稚園、第2すずかきしおか幼稚園の両園共通で発行しております。本年度も園を身近に感じていただき、ご家庭と園とが寄り添えるような情報を提供させていただこうと考えておりますので、ご高覧いただきますようお願いいたします。

なお、近年叫ばれている「ペーパーレス」に対応するため、本年度よりべるきっずはPDFにて送信させていただきます。画面においてはなかなか読みにくいかもしれませんが、お子さま方の園での様子も写真にてご覧いただけるかと思っておりますのでご理解ください。



教育目標（園是）

正しく 強く 仲良く

めざす園児像（園の誓い）

私たちは 仏さまに手を合わせます

私たちは お約束を守ります

私たちは ありがとうと言えます

私たちは お友達と仲良くできます

教育方針

生命の尊さ 感謝の心を育む

教育努力目標

あるがままの姿で 一人ひとりを育てる

○左記の教育目標や教育方針などは、すずか幼稚園と第2すずかきしおか幼稚園が、幼稚園の教育活動を通して子どもたちにつけたい力や教員の努力する内容などを表しています。

○めざす園児像は、子どもたちの「おちかいのこたば」として、毎月の仏参の場で、子どもたちと唱和しています。

親ジカは身を挺して危険回避法を教える

ノウサギの場合、何か危険があると石像のように固まってしまうということをする。じっと体を硬直させて微動だにせず、傍らにある石と全く同じものになってしまうという危険回避法だ。“すくむ”または“すくみ”というが、何か異様なにおいを間近にかいだり物音を聞いたりしたときに、石や植物と同じになって全く動かない状態で何分いられるかが、助かるか助からないかの瀬戸際になる。親と子が一緒にいるとき、危険を察知した親がパッと石になる。子どもがうろうろしていると、親は自分と同じことをするようにきびしく学習させる。それで助かった子は、すぐに自分が石になることを覚えるのである。

また、シカの多くに見られることであるが、親が餌を食べにいけない、しかも立って待っていてはいけない、すわっていなさいと教えられる。そのすわり方も、首を曲げて自分の肩の上に乗せる。そうすると、白と褐色のまだらが、ちょうど木もれ日にあたって保護色になり、目立たなくなるのである。

しかも、親が一時間草をはんで（食べて）帰ってくると、十メートルでも二十メートルでも場所を移動させて、また同じようにさせ、再び親は草を食べにいく。これらは、なぜそうされるのか子どもにはわからなくても、そのまま学習して身につけ、自分が親になったときに同じことを子どもにしてやるということになるであろう。

動物の世界には擬傷（ぎしょう）というものがある。傷を負っているようにごまかすという意味であるが、たとえばチドリの親などは、巣にヒナがいる状態で、ヤマネコがやってきて、それをこちらのほうが早く発見したというとき、わざとヤマネコの目の前に飛び出し、まるで足か翼がおれているかのように、飛ばないでヨタヨタと片羽で逃げていく。ヤマネコは一生懸命それを追ってくる。そして、もうヒナたちは安全だということまでくると、急にパッと飛び立つのである。

同じようなことをシカもよくやる。エルクというシカの例は有名で、自分の子どもが遊んでいる近くにクマが迫ってきたなどという場合、クマの目の前を親がすっ飛んでいくのである。そして子どもがいるのと反対の方向に全速力で逃げていく。クマはそれを追っていく。もうクマが子どものいるところに行くことはできないと確認できる時点で、今まで以上に全速力で走り、クマを引き離して遠回りして元へ戻るのである。

そういう経験を経た子どもには、それがたくましくして学習として残っていく。このような例は動物の世界には無数にあるのだ。

（元上野動物園長 中川志郎 著「パンダは舐（な）めて子を育てる」より抜粋）



ソメイヨシノは、なぜ、一斉に咲いて、一斉に散るのか？

サクラ名所のサクラはほとんどソメイヨシノである。東京では3月末に開花し、1週間後に満開、その後10日ほどで花びらが落ちる。ソメイヨシノが同時期に一斉に咲くのは、もともと同じ1本の木だったものを挿し木によって増やし、それを各地のサクラ名所に植えたからである。もともと同一木なのだから、日照時間、気温など条件が同じなら、同時に、パッと咲き、パッと散るわけだ。

（こどもにウケル楽しい雑学②より）